

指定管理者制度導入施設の運営状況（平成27年度）

1. 施設名等

施設名	大分県立総合文化センター（iichiko総合文化センター）	所在地	大分市高砂町2-33
		電話番号	097-533-4000
		ホームページ	http://www.emo.or.jp/
施設名	大分県立美術館	所在地	大分市寿町2-1
		電話番号	097-533-4500
		ホームページ	http://www.opam.jp/

2. 指定管理者および県の所管部課（窓口）

指定管理者	名称 所在地 指定期間	公益財団法人 大分県芸術文化スポーツ振興財団 大分市高砂町2-33 平成25年10月1日～平成30年3月31日	県の所管部課 (局・室)	企画振興部 芸術文化スポーツ局 芸術文化振興課 TEL：097-506-2058
-------	-------------------	---	-----------------	--

3. 施設の概要

設置年月日	平成10年8月1日	※iichiko総合文化センター
設置根拠	大分県立総合文化センターの設置及び管理に関する条例	
設置目的	文化の創造と享受の場を提供することにより、県民の多様な文化活動を促進し、もって個性ある地域づくりと潤いのある生活の創造に寄与する。	
事業内容	①センターの施設及び設備の利用に関すること。 ②音楽・演劇等芸術文化の鑑賞の機会を提供すること。 ③文化に関する情報を収集し、及び提供すること。 ④その他、センターの目的を達成するために必要な事業	
施設内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ iichikoグランシアタ（大ホール1,966席） ・ iichiko音の泉ホール（中ホール 710席） ・ iichikoアトリウムプラザ ・ リハーサル室・練習室（9室）、映像小ホール、県民ギャラリー、会議室（6室） ・ 駐車場（295台） 	
使用料等	※終日利用の料金 ・ iichikoグランシアタ：228,100円～501,800円 ・ iichiko音の泉ホール：99,700円～223,300円 ・ iichikoアトリウムプラザ：5,150円～41,100円 ・ リハーサル室・練習室：3,490円～17,250円、映像小ホール：35,950円、 県民ギャラリー：9,250円～10,800円 ・ 会議室：13,600円～28,900円 ・ 駐車場：最初の30分以内 無料、30分を超え1時間以内 200円、1時間を超え30分ごと 100円、 営業時間外（23時～翌朝8時）※出入庫不可 900円	
閉館日	第2・第4月曜日及び年末年始（12月29日～1月3日）	

設置年月日	平成27年4月1日	※大分県立美術館
設置根拠	大分県立美術館設置及び管理に関する条例	
設置目的	・ 芸術文化創造の拠点として、優れた美術作品の鑑賞及び学習機会を提供するとともに、創作活動及び作品発表等の支援を通じて、県民の感性や創造性を高め、文化を核とした地域力を高めるため。	
事業内容	①美術品及び美術に関する資料の収集、保管、展示及び利用に関すること。 ②美術品等に関する調査及び研究に関すること。 ③美術に関する情報の収集及び提供すること。 ④美術に関する講演会、講座等を開催すること。 ⑤美術館の施設及び設備の利用に関すること。 ⑥学校及び他の美術館、博物館その他の文化施設等との連携に関すること。 ⑦その他、美術館の目的を達成するために必要な事業	

施設内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1階 展示室A アトリウム ミュージアムショップ モバイルカフェ ・ 2階 アトリエ 研修室 体験学習室 カフェ ・ 3階 展示室B コレクション展示室 ・ 屋外駐車場（143台、24時間利用可） 地下駐車場（107台、8時～23時）
使用料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観覧料（コレクション展）：200円～300円 ・ 展示室A：9,250円～37,000円（終日） ・ 展示室B：9,250円～37,000円（終日） ・ アトリウム：4,800円～19,000円（終日） ・ 研修室：1,200円（1時間） ・ アトリエ：1,200円（1時間） ・ 駐車場：最初の30分以内 無料、30分を超え1時間以内 200円、1時間を超え30分ごと 100円、営業時間外（23時～翌朝8時）※出入庫不可 900円
閉館日	原則として無休（館内点検等のための臨時休館を除く）

4. 目標指標の達成状況

iichiko総合文化センター

指標	年度	目標数値	実績	達成率(%)
ホール年間利用率(%) ※グランシアタと音の泉ホールの 利用率の合計を2で除した数	平成24年度	83.5	88.9	106.5%
	平成25年度(上期)	83.5	85.7	102.6%
	平成25年度(下期)	87.0	89.6	103.0%
	平成26年度	87.0	84.3	96.9%
	平成27年度	87.0	85.6	98.4%

大分県立美術館

指標	年度	目標数値	実績	達成率(%)
来館者数(人)	平成27年度	500,000	642,505	128.5%

5. 施設の利用状況

iichiko総合文化センター

利用者数(人)	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	平成24年度	21,108	23,056	22,053	15,756	24,548	21,738	
	平成25年度	18,896	20,965	13,620	21,122	22,487	20,381	
	平成26年度	9,076	23,441	17,952	22,879	28,808	26,319	
	平成27年度	22,066	15,599	14,768	19,101	21,228	15,778	
	年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
	平成24年度	22,367	24,795	24,680	10,874	19,177	23,381	253,533
	平成25年度	22,639	18,470	19,621	14,597	14,043	23,226	230,067
	平成26年度	22,358	26,666	15,856	15,123	15,037	27,908	251,423
	平成27年度	22,520	33,206	21,114	13,101	19,518	21,713	239,712

大分県立美術館

利用者数(人)	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	平成27年度	19,275	77,701	94,066	70,289	138,932	44,223	
	年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
	平成27年度	42,230	33,397	29,969	32,437	33,634	26,352	642,505

6. 利用者満足度調査等の実施状況

利用者満足度調査	実施方法	<p>iiichiko総合文化センター</p> <p>①施設利用者アンケート(H27年3月実施):646団体(個人を含む)うち234団体回答(回収率36.4%)</p> <p>②自主公演開催時に公演ごとにアンケートを実施</p> <p>③メール(専用アドレス)、電話、FAX、意見箱(館内6ヶ所)による意見の受付</p> <p>大分県立美術館</p> <p>①施設利用者状況報告(利用時):意見、感想を記入依頼</p> <p>②施設来館者アンケート(随時):館内2カ所にアンケート用紙を設置し、随時回収</p>
	実施結果	<p>iiichiko総合文化センター</p> <p>①施設利用満足度については、「大変満足」「ほぼ満足」を合わせると82.2%となり、利用者の満足度は高い</p> <p>②施設を利用する理由として上位にあげられているのが、「立地がよい」「施設・設備が充実」「料金が適正」「知名度が高い」などである</p> <p>③自主公演ごとのアンケートでは、ほぼ全ての公演で「たいへん良かった」「良かった」が90%を超えている</p> <p>大分県立美術館</p> <p>①施設利用状況報告では、「可動壁設置に時間がかかる」や「展示壁に汚れがあった」等、いただいた意見に対し改善に努めた。また、「入館者が増加した」「スタッフの対応が良かった」という意見が多く、満足度の高い回答をいただいた。</p> <p>②館内設置の来館者アンケートでは開館直後に、「館内表示が小さくてわかりにくい」というご意見を多く頂いた。これに対し、サイン増設や文字の拡大等、常に改善に取り組み、表示に対するご意見は減少している。</p>
利用者等からの主な意見・要望・苦情		左の対応状況
映像小ホールのプロジェクタが古い。(センター)		経年劣化や映像機械の進歩により古くなったプロジェクタを新型に更新した。
ホールの展示パネルが汚い。(センター)		経年劣化により汚れが目立つようになっていたホール展示パネルのクロス貼り換えを行った。
県民ギャラリーはガラス張りで外から丸見えなので、利用時に中が見えないようにしたい。(センター)		催事内容によっては外部からの目隠しができるようスクリーンパーテーションを購入・設置した。
演台が汚い。(センター)		経年劣化により傷が目立つようになった会議室と映像小ホールの演台を新規購入した。
施設利用時の駐車料金が負担である。(センター)		昨年度試行した、施設と駐車場の一体的利用の促進を目的とした練習室利用客対象の1時間(200円)の駐車場割引券提供を継続実施した。
施設内の誘導サインがわかりにくい。(美術館)		案内板の増設、表示文字の拡大をはじめ、常に改善に取り組んだ。
ホームページのアクセスマップがわかりにくい。(美術館)		掲載していたgoogleマップに加え、近隣アクセスマップを制作し、追加した。
可動壁が汚れている。(美術館)		利用終了時に職員によるパテ埋めを実施し、次の利用者に引き渡すよう、新たな取り組みを開始した。
トイレの便座クリーナーを設置してほしい。(美術館)		利用者の多いトイレに便座クリーナーを新設した。

7. サービス向上に係る主な取組内容

サービス提供体制の強化	<ul style="list-style-type: none">① iichiko総合文化センターと美術館の管理業務に関して、それぞれの施設の特異性を考慮すべき業務を除き、清掃、駐車場等警備、植栽管理等の業務を一括で発注し、スケールメリットを活かした最適な方法で委託した。② iichiko総合文化センター1階のインフォメーションでは、施設の予約、チケット販売、友の会の入会などiichiko総合文化センターのサービス窓口としてワンストップで対応することはもとより、美術館の企画展の前売券を販売するなど、両施設で連携したサービス提供に努めた。③ iichiko総合文化センターでは大分県立美術館の、大分県立美術館ではiichiko総合センターの専用チラシスタンド設置、駐車場の相互誘導など、両施設の連携によるサービス提供にも努めた。④ iichiko総合文化センターと大分県立美術館共通を中心に県内の芸術文化に広く親んでもらうための「大分県芸術文化友の会:びび」について会員拡大に取り組むとともに、様々な芸術文化関連情報の発信やチケット割引等各種サービスの提供を行った。⑤ 施設と駐車場の一体的利用の促進を図るため、練習室利用者を対象に駐車場利用料金割引券を提供するサービスを継続した。⑥ 会議室として利用するには若干照度の低かった映像小ホール天井部に間接照明を増設し、会議室としての環境整備に努めた。⑦ 会議室のプロジェクターや演台を更新したほか、ホール展示パネルのクロス補修、楽屋イスのキャスター交換を行うなど、経年劣化により痛んでいる設備を利用者が気持ちよく利用できるように環境整備を実施した。⑧ ミュージアムショップでは事業者と企画・開発を行ってきたオリジナル商品の販売を、カフェでは開催中の企画展と連携したメニューの提供を行なった。⑨ お正月の1月1日から3日にかけて、着物での美術館来館者へ企画展無料対応を行なった。⑩ より美術館を楽しんでいただけるよう、美術館来館者に対して建物や展示物を紹介する、「OPAMサポーター館内ガイドツアー」を実施した。
-------------	--

【芸術文化ゾーン】

- ① 8月に開催した「Tanavata Starlight Express 2015」では、iichiko総合文化センターアトリウムプラザや市内中心部商店街を会場として、音楽、アート、パフォーマンス等が融合した事業を実施した。
- ② 12月に開催した「HEart of Christmas! 2015」では、中高生芸術文化祭「ミラスタ」や美術館企画展と連動したピアノコンサート、県内大学との協働による子ども向けアート体験イベントなどネットワークを活用したイベントに市内中心部商店街等と連携して取り組んだ。

【総合文化センター】

- ① 県立美術館開館記念バレエ「ドン・キホーテ」は、大分が誇る世界的バレエダンサー首藤康之氏を迎え、大分オリジナルの全国に発信できる自主製作バレエ公演となった。満席の中、約一年半の稽古を重ねたおおい洋舞連盟の研究生と日本でトップクラスのダンサーたちとの共演は、芸術性が非常に高く、終演後、マスコミ各社からの賞賛の声が続いた。
- ② 「iichikoグランシアタ・ジュニアオーケストラ」に関しては、年度末に開催した第7回定期演奏会で大曲に挑戦し1,130名の来場者に演奏を披露したほか、弦楽や管楽器アンサンブルによる出張演奏を行うなど、一層活動の場を広げた。
- ③ 12月に開催したiichiko presents「宝塚雪組 大分公演」は、3年ぶりの大分公演で、地元大分出身の蓮城まことが出演するという事もあり、昼夜合わせて3,675名という多くのお客様にご来場いただいた。会場は大いに沸き、特に第2部のレビュー公演は衣装・セット共に華やかで、会場全体を魅了した。
- ④ 「ワンコインリレーコンサート」に関しては、500円という低価格で様々なジャンルの一流の音楽を楽しむことができる演奏会を年間を通じて3回開催した。
- ⑤ ミュージカル体験ワークショップに関しては、発表の場を取り入れるとともに、遠隔地で開催するなど内容を充実させて効果をあげた。
- ⑥ 歌舞伎やオペラなど鑑賞が難しいと思われがちなジャンルについて、実演を交えてわかり易く解説するレクチャーを実施し、舞台芸術の愛好者を増やすことができた。

【県立美術館】

- ① 4月24日から県立美術館開館記念展として「モダン百花繚乱『大分世界美術館』」を開催。国内外の名品を約200点展示した。特に6月9日から21日にかけては九州初公開となる、国宝・長谷川等伯「松林図屏風」を展示し、大いに賑わった。
- ② 8月1日から30日まで開催した「進撃の巨人展-WALL OITA-」では夏休み期間中の開催ということもあり、県内外から多くの来館者が訪れた。
- ③ 年間5本の企画展を開催する中で、ワークショップ等の関連イベントの開催や来館者プレゼントなど、常に楽しめる企画を実施した。
- ④ 大分県立美術館で所蔵する約5千点の作品の中から選りすぐりの作品を、年間6期に分けたコレクション展を通じて紹介した。
- ⑤ 開館記念展の開催にあわせ、県、県教育委員会とともに全県下の小学生約6万人を美術館に招待する「小学生ファーストミュージアム体験事業」を実施し、鑑賞レクチャー等を行なった。
- ⑥ 佐伯市で「所蔵作品巡回展」を、玖珠中学校で「スクール・ミュージアム」を開催し、大分県立美術館の所蔵する作品の魅力を県内に発信した。

【文化情報の発信・提供】

- ① 財団機関誌により、iichiko総合文化センターや県立美術館のイベント情報のほか、おおい国際交流プラザニュース等幅広い情報を発信した。
- ② 月間イベントカレンダー、ホームページ、メールマガジン、JR大分駅デジタルサイネージ、フェイスブック、ツイッター等により、芸術文化に関する情報を発信した。また、商店街と連携し、ポスターの掲示やチラシの配布等、広報活動に努めた。
- ③ 県公立文化施設協議会の会長館として、各施設の主催事業を取りまとめた「ホールナビ」を作成し、ホームページや新聞広告等を通じて県内外に情報発信を行った。
- ④ 美術館開館に関する情報提供をマスコミに対して継続的に行なったほか、開館前後にはテレビ局各社の中継等に対応し、開館PRを行なった

8. 管理に係る収支の状況

(単位：千円)

		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
収入額(A)		387,091	413,555	611,033	794,580
内訳	県からの委託料	120,544	160,879	344,813	452,367
	利用料金	265,933	251,641	260,750	337,242
	雑収入	614	1,035	5,470	4,971
支出額(B)		387,091	413,555	611,033	794,580
内訳	人件費	83,656	102,144	182,954	212,869
	維持管理費	2,224	4,206	3,824	3,824
	事業費	274,556	283,655	399,175	552,807
	繰入金	0	0	0	0
	iichikoパートナーシップ履行事業費	22,500	22,500	24,000	24,000
	サービス改善提案事業費	1,050	1,050	1,080	1,080
	その他	3,105	0	0	0
収支差額(A-B)		0	0	0	0

9. 施設使用料等の収入状況

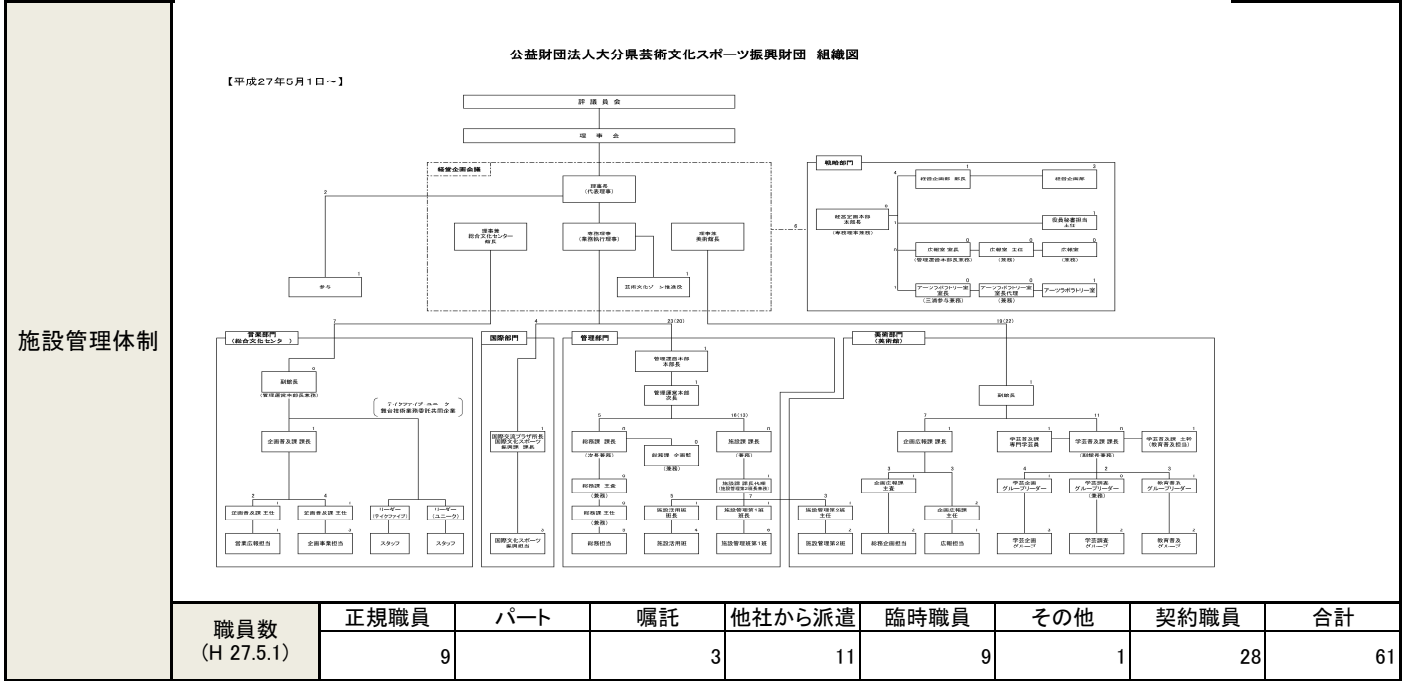
iichiko総合文化センター

利用料金(千円)	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	平成24年度	43,200	17,124	22,348	23,712	21,094	22,104	
	平成25年度	35,276	20,065	24,231	19,679	21,017	22,205	
	平成26年度	27,885	21,960	27,432	21,736	22,032	20,690	
	平成27年度	31,549	21,983	25,387	24,568	22,334	19,826	
	年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
	平成24年度	21,051	23,084	20,575	15,219	16,119	20,303	265,933
	平成25年度	19,393	18,680	18,571	16,747	13,456	22,321	251,641
	平成26年度	18,894	22,691	17,296	19,536	15,524	25,074	260,750
	平成27年度	23,709	21,674	19,806	19,130	15,208	24,120	269,294

大分県立美術館

利用料金(千円)	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	平成27年度	2,082	4,767	4,622	4,406	8,504	15,653	
	年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
	平成27年度	7,108	2,476	1,936	1,898	9,828	4,668	67,948

10. 指定管理者の管理体制



11. 適正な管理運営に係る主な取組内容

職員の資質・能力の向上	<p>① 「技術委員会」、「アートマネジメント研修会」等に職員を派遣し、地域における芸術文化振興の中核として、施設の円滑な運営を行うためのノウハウの習得に努めた。</p> <p>② 「全国公立文化施設協議会九州支部技術研修会」をiichiko音の泉ホールで実施し、九州各地32団体、56名が参加した。当財団は会場館として参加し、施設の円滑な運営を行うためのノウハウについて九州各県の類似館と情報交換することができた。</p> <p>③ iichiko総合文化センターのホールレセプションニストとして活躍しているボランティアスタッフに関して、他館のスタッフの活動の視察、大分県芸術文化短期大学への研修指導、財団自主公演の制作への参画などを通じて、多面的なスキルアップを図った。</p> <p>④ 美術館開館により、各担当職員が他の美術館職員と作品の貸借等を通じて交流する機会が増え、スキルアップに役立っている。また、九州国立博物館で開催されたIPM(総合的病害虫管理)研修に参加し、ノウハウの蓄積に努めた。</p> <p>⑤ 複合施設OASISひろば21と共同して、消防署員を講師とした救急救命講習会を実施。当財団からも4名を派遣し、緊急時の対応について知識の習得に努めた。</p> <p>⑥ 2月に一般財団法人地域創造との共催で「公立文化施設のマネジメントについて」の研修会を、県内公立文化施設の職員を募り開催した。</p>
安全対策等	<p>【iichiko総合文化センター】</p> <p>① エレベーターや舞台設備など専門性を有する部分については、業者による定期点検を実施し、異常箇所があれば即座に連絡を取り合う体制を確立できた。</p> <p>② 公演中の停電や機器の不具合発生など不測の事故発生を防止するため、施設・機器の利用前後の点検を実施し、施設利用者や来場者の安全対策に万全を期した。</p> <p>③ 施設の計画的・効率的な維持補修のため、県施設整備課と連携して大規模改修計画を作成して計画的な修繕等を行った。</p> <p>④ OASISひろば21の統括管理者である(株)エフ・ティー・シー大分と催事情報の共有等を図るとともに、適時、共同で施設巡回を実施し、異常箇所がないか確認を行い、異常な箇所が発見されたときは速やかに対応した。</p> <p>【県立美術館】</p> <p>① 警備、清掃、設備保守の委託業者決定後、定期的に連絡会議を開催し、美術館の開館に向け情報共有を図るとともに、館内の安全対策等について意見交換を行い、開館後の施設の管理運営体制を整備した。</p> <p>② 10月に1年目の瑕疵検査を県施設整備課、設計者、建築施工業者立ち会いで実施した。検査の結果、瑕疵が認められた事案については改善を行なった。今後も不具合箇所については、設備をはじめとした第三者委託業者と連携し、情報共有しながら2年目の瑕疵検査も視野に取りまとめと改善要求を行なう。</p> <p>③ 7月にOPAMサポーター向けに一般救急講習を目的としたサポーター研修を4回実施した。</p>